

児童教育学科

児童教育学科教員が自分の専門に基づいてコラム等をお届けします

山口恭平（講師）

専門は「教育思想」「シティズンシップ教育」。大学では「教育原理」などの授業を担当。

シティズンシップ教育 という言葉をご存知ですか？ これは、民主主義社会において、役割を果たす市民を育てる教育です。その中で私は、社会に積極的に関わっていくこと、つまり、主体性に関する研究をしてきました。

ここで、私の大好きな映画『コクリコ坂から』を紹介합니다。老朽化により取り壊しが議論されていた部活棟“カルチェラタン”。ここに出入りするようになった主人公は、カルチェラタンを「きれいにして、女子を招待したら、みんな素敵な巣窟だって思うわ。」と大掃除を始め、多くの女子を巻き込んだ結果、保存を望む生徒が多数になります。ところが、学園側は取り壊しを決定してしまいます。しかし、カルチェラタンを愛する主人公たちは、あきらめません。理事長に直談判して、カルチェラタンの素晴らしさを訴えます。その結果・・・は、ぜひ映画をご覧ください。

この映画から私は、自分たちの大切なものや、生活を守るために、真剣に話し合い、活動し、躍動する生徒たちのパッションに胸を打たれます。

「みんなの生活に関わることを、みんなで決める」ことが、民主主義社会のルールです。私たちは、社会科で選挙の仕組みは学びます。しかし、選挙で実際に投票するとき重要な能力は、「時事的論争的なテーマについてさまざまな意見を聞き判断する能力」です。近年、こうした能力を学校で育成する動きが広がっています。たとえば、模擬選挙などは広く行われていますし、2022年度から始まる高校の新科目「公共」でも、こうした能力の育成に主眼が置かれています。

民主主義社会の担い手を育てる教育で重要なのは、「児童生徒たちが社会の問題を自らの問題として考え、真剣に取り組むことができるか」ということです。だからこそ教育において大切なことは、児童生徒一人ひとりが、自分の“カルチェラタン”を見出すことを手助けすることなのではないか。

私は、そのようなことを考えながら、研究を続けています。

